

**第2次羽生市まち・ひと・しごと創生総合戦略
令和6年度評価シート**

1 政策名および施策名	
基本目標	1 しごとをつくり、安心して働けるようにする
基本施策	1 企業誘致を推進する

2 施策の担当課及び関係課	
担当課	企業誘致推進課
関係課	まちづくり政策課

3 基本施策の方向性
自動車交通の利便性や産業用地取得コストが低いといった本市のポテンシャルを生かして企業誘致を推進します。

4 事業のKPI								達成率 (%)
指標名 (単位)	年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	評価
企業立地件数 (社、累計) (開発許可等取得件数含む)	目標値		➡	➡	➡	➡	15	246.7%
	実績値	3	16	20	27	32	37	S
IT関連企業の市内進出数 (社、累計)	目標値		➡	➡	➡	➡	1	0.0%
	実績値	0	0	0	0	0	0	D
	目標値							
	実績値							
	目標値							
	実績値							
	目標値							
	実績値							

5 第2次総合戦略の取組と評価 (令和2~6年度)			第3次総合戦略の取組	
(1) 企業に対する羽生市のPR	評価	A	令和7年度	
<p>○事業用地情報等をホームページに掲載し情報発信した。</p> <p>○宅建協会北埼玉支部へ事業用地情報の提供を依頼した。</p> <p>○企業訪問や市内外の企業へのダイレクトメールによるアンケート調査の実施に加え、誘致に向けて本市の魅力を発信するなど、積極的な取り組みを行った。</p> <p>企業訪問 R2: 7社、R3: 8社、R4: 12社、R5: 61社、R6: 132社 アンケート R3年2月: 送付企業139社、回答企業37社、回答率26.6% アンケート R5年11月: 送付企業179社、回答企業48社、回答率26.8%</p>			<p>○Googleフォームを利用した立地意向アンケート調査を市内、県内企業計200社へ実施する。</p> <p>○企業訪問を継続して実施する。公共施設未利用地についても市内立地の検討材料として情報提供を行う。</p>	
(2) 企業立地相談のワンストップサービスの充実	評価	A	令和7年度	
<p>○新規立地相談や既存施設の拡張相談に対する開発許可取得に係る手続きについて、関係各課と調整し、総合的な支援を行った。</p> <p>R2: 15社、R3: 4社、R4: 7社、R5: 5社、R6: 5社</p>			<p>○市内立地検討企業及び既存施設の事業拡張企業からの相談に対して、行政手続きに関する支援を行い、許認可取得に向けて総合的な調整を図る。</p>	
(3) 岩瀬地区における産業用地の整備	評価	A	令和7年度	
<p>○上岩瀬地区 立地企業決定、市街化区域へ編入、用地買収完了 (R2)、県企業局による造成工事及び市施工の道路改良工事 (R3~R4)、土地引き渡し (R5)、建築工事 (R6~)</p> <p>○区画整理事業地内 (北工区) 立地企業決定 (R2)、区画整理組合による造成工事を実施 (R2~R4)、立地企業へ土地の一部引渡し (R4)、建築工事 (R5) 竣工・稼働開始 (R6)</p>			<p>○上岩瀬地区は令和8年2月に竣工予定である。</p> <p>○区画整理事業地内は令和6年6月に竣工済みである。</p> <p>○現在、市内他地区において産業用地の整備に向け埼玉県企業局と連携し事業を進めているため、本取組を終了する。</p>	
(4) 企業ニーズに応じた柔軟な対応	評価	A	令和7年度	
<p>○主要幹線道路沿いにおける企業立地について、都計法第34条第12号の区域指定を行った。</p> <p>区域指定箇所数 R2: 4箇所 R3: 3箇所 R4: 0箇所 R5: 0箇所 R6: 3箇所 指定10箇所のうち 竣工済7か所、施工中3か所</p>			<p>○企業の進出により区域指定可能な場所が減少しているため、区域指定の在り方や要件の見直しを検討する。</p> <p>○既存の指定区域 (東武鉄道所有地) において、東武鉄道及び埼玉県等と連携し企業立地を迅速に進める。</p>	
(5) IT関連企業の誘致	評価	D	令和7年度	
<p>○羽生駅東口の市有地活用を過去に検討した経緯があるが、市としての方針が決まっていない状況で、誘致に関する具体的な取組ができなかった。</p> <p>○立地適正化計画を策定するため、令和5、6年の2か年で庁内検討を行った。</p>			<p>○立地適正化計画 (R7.4公表) において、羽生駅東口周辺は都市機能誘導区域に設定されているため、計画に即した総合的なまちづくりが必要である。これにより、個別具体的にIT関連企業の誘致を検討することが困難となったため、本取組を終了する。</p>	
(6)	評価		令和7年度	

【評価基準】 S: 100%を超える A: 90%以上100%以下 B: 75%以上90%未満 C: 75%未満 D: 評価不能

1 政策名および施策名	
基本目標	1 しごとをつくり、安心して働けるようにする
基本施策	2 農業を活性化させる

2 施策の担当課及び関係課	
担当課	農政課
関係課	

3 基本施策の方向性
次世代に向けた魅力ある産業として、安心して受け継げる農業の実現を目指します。

4 事業のKPI								達成率 (%)
指標名 (単位)	年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	評価
法人の農業参入数 (法人、累計)	目標値		➡	➡	➡	➡	10	70.0%
	実績値	1	5	5	6	6	7	C
農地中間管理事業と連携した基盤整備事業実施面積 (ha、累計)	目標値		➡	➡	➡	➡	300	74.2%
	実績値	164	187.6	188.9	193.0	193.0	222.6	C
農地中間管理機構への貸付面積 (ha、累計)	目標値		➡	➡	➡	➡	700	93.3%
	実績値	411	470.0	485.2	523.9	564.0	653.0	A
	目標値							
	実績値							
	目標値							
	実績値							

5 第2次総合戦略の取組と評価 (令和2~6年度)			第3次総合戦略の取組	
(1) 10ha規模の農業経営体の育成及び法人化への誘導	評価	B	令和7年度	
<ul style="list-style-type: none"> ○認定農業者への経営改善計画のサポートを行った。 ○県、JA、関係機関と連携し、法人化・企業参入等の情報収集を行った。 ○農地中間管理事業を活用した担い手への農地集積を促進した。R6:74.7ha ○国補助金を活用した農業経営規模の拡大を支援した。 			<ul style="list-style-type: none"> ○認定農業者への経営改善計画のサポートを継続する。 ○県、JA、関係機関と連携し、法人化・企業参入等の情報収集を継続する。 ○農地中間管理事業を活用した農地集積を促進する。 ○国補助金を活用した農業経営規模の拡大を支援する。 	
(2) 新規就農者及び農業後継者への支援	評価	B	令和7年度	
<ul style="list-style-type: none"> ○地域農業の担い手育成のため認定農業者を確保した。認定農業者170人 (R7:3未現在) ○新規就農者発掘のため県農業大学校に通う生徒に授業料等を支援した。R2:1名 R3:1名 R5:1名 ○新規就農者に資金を交付し、経営を支援した。(国補助) R2:1名 R3:1名 R4:2名 R5:2名 R6:2名 ○農業後継者の設備投資等を支援した。R2:1名 R3:1名 ○経営の拡大を目指す農業後継者を支援した。(国補助1/2) R3:2件 ○はにゅう農業担い手育成塾の受け入れを行った。R2:1名 			<ul style="list-style-type: none"> ○新規就農者支援や農業後継者支援を継続する。 ○チャレンジファームと連携し就職就農者を確保する。 ○新規就農イベント等で新規就農支援をPRする。 	
(3) 観光農園等基本構想地等への企業の農業参入支援	評価	A	令和7年度	
<ul style="list-style-type: none"> ○観光農園等基本構想計画地への企業参入に向け農地改良(畑地化)を実施した。R2:3ha R3:2.2ha R5:0.27ha R6:2.5ha ○観光農園等基本構想計画地への参入希望企業との調整及び協議を行った。 ○参入企業の生産施設拡大を支援した。(国補助) R4:1件 			<ul style="list-style-type: none"> ○観光農園等基本構想計画地への参入企業の選定継続及び参入企業との連携を図る。 ○観光農園等基本構想計画地への参入企業と地域活性化について連携を強化する。 ○参入企業の生産施設拡大を支援する。 	
(4) スマート農業の推進	評価	A	令和7年度	
<ul style="list-style-type: none"> ○北埼玉スマート農業研究会の活動を支援した。 ○県、JA、関係機関と連携し、導入事例等の情報収集及び情報提供を行った。 ○ICTを活用した生産体制を検討する法人を支援した。 ○スマート農業機械等の導入を支援した。R4:3件 R5:1件 R6:2件 			<ul style="list-style-type: none"> ○北埼玉スマート農業研究会の活動支援を継続する。 ○導入事例等の情報収集及び情報提供を継続する。 ○スマート農業機械等の導入支援を継続する。 	
(5) 6次産業化の推進	評価	B	令和7年度	
<ul style="list-style-type: none"> ○6次産業化に取り組む農業者の設備投資等を支援した。R2:2件 R3:2件 ○6次産業化を検討する農業者への情報提供、相談受付を行った。R2:3件 			<ul style="list-style-type: none"> ○6次産業化に取り組む農業者支援を継続する。 ○農産物の新たな販売方法を確保する。 ○相談体制の充実を図る。 	
(6) 埼玉型ほ場整備の実施	評価	C	令和7年度	
<ul style="list-style-type: none"> ○埼玉型ほ場整備実施計画を策定した。R2:井奈大房地区29.6ha、村君地区51.4ha ○埼玉型ほ場整備事業(大房地区、村君地区)を実施した。(R3~R7) ○公社営埼玉型ほ場整備事業(藤井下組地区)を実施した。(R3~R4) ○機関連携ほ場整備の事業化に向けた調整を行った。弥勒北地区37.4ha 			<ul style="list-style-type: none"> ○埼玉型ほ場整備事業(大房地区、村君地区)を実施する。(R3~R7) ○県営調査(弥勒北地区)を実施する。(R5~R9) ○公社営埼玉型ほ場整備事業(藤井下組(第2期)地区)を実施する。(R6~R7) 	

【評価基準】 S:100%を超える A:90%以上100%以下 B:75%以上90%未満 C:75%未満 D:評価不能

1 政策名および施策名	
基本目標	1 しごとをつくり、安心して働けるようにする
基本施策	2 農業を活性化させる

2 施策の担当課及び関係課	
担当課	農政課
関係課	

3 基本施策の方向性
次世代に向けた魅力ある産業として、安心して受け継げる農業の実現を目指します。

4 事業のKPI								達成率 (%)
指標名 (単位)	年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	評価
1-2 1枚目 にまとめて記載								
	目標値							
	実績値							

5	第2次総合戦略の取組と評価 (令和2~6年度)	第3次総合戦略の取組
(7)	畦畔撤去による区画拡大工事の実施 評価 A	令和7年度
○公社営簡易基盤整備事業による区画拡大工事を実施した。 R2 発戸漆畑地区: 6.2ha、新郷 (第2期) 地区: 17.4ha、R3 発戸猿淵地区: 1.3ha ○次年度以降に実施する地区の掘り起こしを行った。 ○畦畔撤去を支援した。補助交付 R6: コンクリ畦畔8件/1,970m、土畦畔1件/390㎡		○公社営簡易基盤整備事業による区画拡大工事を実施する。 ○次年度以降に実施する地区の掘り起こしを行う。 ○畦畔撤去の支援を継続する。
(8)	耕作放棄地の解消に対する支援 評価 B	令和7年度
○農業委員会の農地利用状況調査により遊休農地を確認し、農地の利用集積と遊休農地の発生防止、解消対策を実施した。耕作放棄地解消面積5.4ha (R7.3末現在) ○農業者による耕作放棄地の解消及び営農再開を支援した。補助交付 R2: 2件/4,815㎡ R3: 5件/13,270㎡ R4: 3件/3,246㎡ R5: 1件/4,909㎡ R6: 2件/2,348㎡		○農業委員会の農地利用状況調査により遊休農地を確認し、農地の利用集積と遊休農地の発生防止、解消対策を実施する。 ○農業者による耕作放棄地の解消を支援する。
(9)	地域の意見集約、相談の受付、アドバイス 評価 B	令和7年度
○各地区の農業委員及び農地利用最適化推進委員の活動を推進した。 農業委員等が調整し、集積した農地 0.6ha (R7.3現在) ○農地相談会を実施した。		○各地区の農業委員及び農地利用最適化推進委員の活動を推進する。 ○農地相談会を実施する。
(10)	県・JA等関係機関との連携強化 評価 A	令和7年度
○農地中間管理機構等による基盤整備に合わせた農地の集積を行った。 R2: 新郷 18.7ha 発戸 6.8ha ○農地中間管理事業推進会議を開催した。 ○県主催の研修会等に参加した。 ○県、JAほくさいと意見交換会を開催した。 R6: 2回		○農地中間管理機構等による基盤整備に合わせた農地の集積を行う。 ○県主催の研修会等に参加する。 ○県、JAほくさいと意見交換会を開催する。 ○JAほくさいの講習会等に参加する。
(11)	実質化に向けた「人・農地プラン」の作成 評価 S	令和7年度
○アンケート、意見募集等を実施した。 ○アンケート結果や農業者の意見を反映させ、地域の課題や方向性を協議した。 ○各地区における担い手の発掘及び確保に取り組んだ。 ○市内20地区の実質化した人・農地プランの作成及び見直しを行った。 ○地域計画策定に向けたアンケートを実施・モデル地区 (尾崎地区) で地域計画を策定した。 ○地域計画を策定した。 R6: 14地区		○地域計画の見直しを行う。 ○地域計画の協議の場を開催する。
(12)		令和7年度

【評価基準】 S: 100%を超える A: 90%以上100%以下 B: 75%以上90%未満 C: 75%未満 D: 評価不能

1 政策名および施策名	
基本目標	1 しごとをつくり、安心して働けるようにする
基本施策	3 働きやすい環境づくりを支援する

2 施策の担当課及び関係課	
担当課	商工課
関係課	

3 基本施策の方向性
市内で働きたい方の雇用を守り、多様な就業環境づくりを創出します。また、創業支援、空き店舗の活用により、市内で起業する方の支援を行います。

4 事業のKPI								達成率 (%)
指標名 (単位)	年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	評価
創業支援事業計画を活用した創業者数 (人/年)	目標値		➡	➡	➡	➡	5	80.0%
	実績値	3	4	3	5	3	4	B
羽生市ふるさとハローワーク就職率 (%、就職者数/新規求職者)	目標値		➡	➡	➡	➡	45	95.6%
	実績値	37	29	38	54	53	43	A
多様な働き方実践企業認定件数 (件、累計)	目標値		➡	➡	➡	➡	50	50.0%
	実績値	34	36	36	31	25	25	C
	目標値							
	実績値							
	目標値							
	実績値							

5 第2次総合戦略の取組と評価 (令和2~6年度)			第3次総合戦略の取組	
(1) 各種就労支援事業	評価	B	令和7年度	
<p>○国、県、ハローワークなど関係団体と連携した各種就労支援事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職支援セミナーの開催 (R2~R6) ・シニア向け就職面接会の開催 (R2~R6) <p>○高齢者・障がい者などの雇用支援事業に関するチラシを配布、掲示した。</p> <p>○内職相談を実施した。</p>			<p>○国、県、ハローワーク等と連携した、就労支援を行う。</p> <p>○就労支援事業に関する広報、事業チラシの配布掲示等を行う。</p>	
(2) 正規雇用者労働者採用の促進及び就職後の支援事業	評価	B	令和7年度	
<p>○国、県、行田地区雇用対策協議会など関係団体と連携した正規雇用労働者採用の促進及び就職後の支援事業を実施した。</p> <p>○市民プラザ内「ふるさとハローワーク」において求人情報の提供や職業相談等を実施した。</p> <p>○行田地区雇用対策協議会・ハローワークとの共催により、熊谷・行田・羽生地域合同就職座談会を実施した。</p> <p>○就労奨励交付金事業を実施した。 R3: 9事業者10名 R4: 8事業者9名</p>			<p>○国、県、雇用対策協議会との共催による就職面接会を実施する。</p> <p>○社会参加意欲のある高齢者のため、就業等の活動機会を確保・提供する。</p>	
(3) 起業家支援事業	評価	A	令和7年度	
<p>○創業支援ワンストップ相談窓口を設置・運営し、市内で創業する方の支援を実施した。</p> <p>○創業支援セミナーの開催を支援し、市内で創業する方の支援を実施した。</p> <p>○女性向け創業セミナーを開催した。</p> <p>○シニアのための起業はじめ方セミナーを開催した。</p> <p>○創業支援事業補助金事業を実施した。</p> <p>R2: 4件/2,772千円 R3: 3件/2,138千円 R4: 5件/4,145千円 R5: 3件/2,365千円 R6: 4件/2,951千円</p> <p>○商店街空き店舗対策モデル事業補助金事業を実施した。</p> <p>R2: 3件 R3: 2件 R4: 3件 R5: 3件 R6: 4件</p>			<p>○創業支援事業計画に基づく、創業支援ワンストップ相談窓口における創業支援を行う。</p> <p>○各種創業支援セミナー及び交流会を開催する。</p> <p>○創業支援事業補助金交付制度のPR・利用推進を図る。</p> <p>○商店街空き店舗対策モデル事業補助金制度のPR・利用推進を図る。</p>	
(4) NEXT商店街プロジェクトによる空き店舗活用事業	評価	A	令和7年度	
<p>○松原通り商店会内に空き店舗を再生及び活用した活動拠点施設 (MD Library) がオープンした。(R4.3)</p> <p>○OMALL DESIGN実行委員会と連携し空き店舗調査や各種イベントを実施した。</p> <p>○令和6年度に一般社団法人MALL DESIGNを設立し、商店街の空き店舗を活用した不動産事業を開始した。</p>			<p>○MALL DESIGNと連携し、空き店舗調査やイベント開催を行い、商店街の活性化を図る。</p>	

【評価基準】 S: 100%を超える A: 90%以上100%以下 B: 75%以上90%未満 C: 75%未満 D: 評価不能

1 政策名および施策名	
基本目標	1 しごとをつくり、安心して働けるようにする
基本施策	3 働きやすい環境づくりを支援する

2 施策の担当課及び関係課	
担当課	商工課
関係課	

3 基本施策の方向性
市内で働きたいと思う方の雇用を守り、多様な就業環境づくりを創出します。また、創業支援、空き店舗の活用により、市内で起業する方の支援を行います。

4 事業のKPI								達成率 (%)
指標名 (単位)	年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	評価
	目標値							
<p>1-3 1枚目 にまとめて記載</p>								
	実績値							

5	第2次総合戦略の取組と評価 (令和2~6年度)	第3次総合戦略の取組
(5)	商工団体と連携した労働者向けセミナー開催 評価 B ○埼玉県労働セミナーを開催した。(R2~R6) ・埼玉県と共催し、対面やオンライン配信で労働者向けのセミナーを開催	令和7年度 ○国、県、商工会等と連携した、労働者に有益なセミナーを実施する。 ○市内労働者に対して、労働者向けセミナーの周知、案内する。
(6)	市内企業の成長を促す経済的・技術的支援 評価 A ○融資あっせん・利子補給事業を実施した。 ・市内企業の事業振興を図るため、セーフティネット・危機関連保証認定を実施 ・市小口融資 R6年度末融資残高：6,690千円 ・利子補給事業の実施。 R6：県短期6件、県長期59件 722千円 ○市内企業の振興を図るため、住宅改修補助金事業を実施した。	令和7年度 ○市内企業の事業振興を図るため、普通貸付、特別小口融資のあっせん及び発動された際のセーフティネット・危機関連保証の認定を行う。 ○市内企業の振興を図るため、住宅改修補助の活用、利子補給事業を実施する。
(7)	市内企業に各種制度周知、支援 評価 A ○市内企業の事業継続のための支援を行った。 ・信用保証料補助の実施 (R2~R3) ・事業継続・家賃支援補助の実施 (R2) ・活力支援、経営支援補助の実施 (R3) ・商工会が行うプレミアム付き商品券への補助等の実施 ・新規事業チャレンジ事業補助金事業の実施 (R4~R6) ・国県補助金、交付金制度のPRを市HPや事業者向けLINEにて周知	令和7年度 ○補助制度のPR・利用推進、利用しやすい補助制度への改正を検討する。 ○商工会と連携したプレミアム付商品券事業を実施する。 ○新規事業チャレンジ事業補助金、節電設備導入支援補助金の実施及び周知を図る。
(8)		令和7年度
(9)		令和7年度
(10)		令和7年度

【評価基準】 S：100%を超える A：90%以上100%以下 B：75%以上90%未満 C：75%未満 D：評価不能

1 政策名および施策名	
基本目標	2 結婚・出産・子育ての希望をかなえ、特色ある教育を提供する
基本施策	1 結婚を応援する

2 施策の担当課及び関係課	
担当課	社会福祉課
関係課	

3 基本施策の方向性
結婚を希望する若者が、安心して結婚できるよう、環境づくりに努めます。

4 事業のKPI								達成率 (%)
指標名 (単位)	年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	評価
結婚相談事業による結婚成立数 (件/年)	目標値		➡	➡	➡	➡	3	33.3%
	実績値	2	3	4	2	1	1	C
カップリングパーティーカップル成立数 (組/年)	目標値		➡	➡	➡	➡	18	38.9%
	実績値	17	5	5	12	9	7	C
	目標値							
	実績値							
	目標値							
	実績値							
	目標値							
	実績値							

5 第2次総合戦略の取組と評価 (令和2~6年度)			第3次総合戦略の取組
(1) カップリングパーティーの開催	評価	C	令和7年度
○結婚相談員の活動を支援するとともに、結婚相談会及びカップリングパーティーを開催し、結婚を希望する方々に出会いの場を提供した。 R2: カップリングパーティー開催1回、参加者/男性14名、女性10名、カップル成立 5組 R3: カップリングパーティー開催1回、参加者/男性11名、女性10名、カップル成立 5組 R4: カップリングパーティー開催3回、参加者/男性33名、女性32名、カップル成立12組 R5: カップリングパーティー開催3回、参加者/男性29名、女性27名、カップル成立 9組 R6: カップリングパーティー開催2回、参加者/男性22名、女性10名、カップル成立 7組			○市内公共施設や企業へパーティー開催案内のポスター、チラシを配布し事業をPRする。 ○パーティー参加者へ、羽生市結婚相談所及びSAITAMA出会いサポートセンターへの登録を呼びかける。 ○他市との合同パーティー開催する。
(2) 結婚相談会事業	評価	C	令和7年度
○結婚相談会を毎月第1日曜日(於:市民プラザ)及び毎月第3日曜日(於:社会福祉協議会相談室)に実施した。(24回実施) 相談件数 R2: 102件、R3: 122件、R4: 100件、R5: 89件、R6: 74件			○市広報やホームページにおいて、開催日等の周知を図る。 ○相談を受け羽生市結婚相談所へ登録した方へ結婚相手を紹介する等、積極的に出会いの場を提供し、支援体制を推進する。
(3)	評価		令和7年度
(4)	評価		令和7年度
(5)	評価		令和7年度
(6)	評価		令和7年度

【評価基準】 S: 100%を超える A: 90%以上100%以下 B: 75%以上90%未満 C: 75%未満 D: 評価不能

1 政策名および施策名	
基本目標	2 結婚・出産・子育ての希望をかなえ、特色ある教育を提供する
基本施策	2 妊娠・出産・子育てを支援する

2 施策の担当課及び関係課	
担当課	こども家庭課
関係課	児童保育課

3 基本施策の方向性
安心して妊娠・出産・子育てができるよう相談事業、助成事業その他の支援に努めます。

4 事業のKPI								達成率 (%)
指標名 (単位)	年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	評価
子育て世代包括支援センターの認知度 (妊娠期～3歳児を持つ家庭の認知度) (%)	目標値		➡	➡	➡	➡	60	105.0%
	実績値	—	66.0	61.6	70.2	63		S (R5実績評価)
インフルエンザ予防接種率 (生後6か月以上中学生以下) (%)	目標値		➡	➡	➡	➡	60	73.3%
	実績値	53	53	45	44	38	44	C
こどもひろば (子育て支援拠点) 等利用者数 (人/年)	目標値		➡	➡	➡	➡	30,000	53.6%
	実績値	17,130	10,457	7,952	12,303	14,737	16,068	C
	目標値							
	実績値							
	目標値							
	実績値							

5 第2次総合戦略の取組と評価 (令和2～6年度)			第3次総合戦略の取組	
(1) 子育て世代包括支援センター事業	評価	A	令和7年度	
OH31年度開設。健康づくり推進課窓口にて、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を実施した。 ○令和6年度にこども家庭課内にこども家庭センターを設置し、母子保健と児童福祉の連携、協働を深め、一体的な相談支援体制を整備した。 相談件数 R2: 303件 R3: 258件 R4: 299件 R5: 269件 R6: 304件			○母子保健と児童福祉の連携、協働により支援の必要な家庭に対し、適切に対応していく。	
(2) 不妊治療費助成事業	評価	A	令和7年度	
○保険診療として実施した一般不妊治療・生殖補助医療・男性不妊治療を対象に、その治療費を助成した。自己負担額から付加給付金を除いた金額の1/2 (上限10万円) なお、令和3年度以前は保険適用前であり県補助対象者に対し一部助成を実施した。 R2: 延べ30人 R3: 延べ33人 R4: 延べ55人 R5: 延べ53人 R6: 延べ58人			○国や県、他市町村の動向をみて事業を充実、継続する。必要な方に情報が届くよう、周知に努める。	
(3) 病児・病後児保育の充実	評価	A	令和7年度	
○市内4か所の保育施設にて、病児・病後児保育 (体調不良児型) を実施した。 ○病児保育室 (病児対応型) の施設整備を支援した。 (R3～R5) ○病児保育室 (病児対応型) 「はねの家」を開室した。 (R6) 利用者 R6: 延べ206人			○働き方の選択肢が増える一方、保護者の就労環境も変化しており、保育を必要とする保護者のニーズに対応するため事業を継続する。	
(4) 子育て支援インフルエンザ予防接種費用の助成	評価	C	令和7年度	
○生後6か月児から中学校3年生までの子のインフルエンザワクチン接種費用の助成をした。自己負担額1,000円 接種者数 R2: 延べ5,859人 R3: 延べ4,769人 R4: 延べ4,605人 R5: 延べ4,280人 R6: 延べ4,342人			○事業の周知に努め、接種率の向上を図っていく。	
(5) こどもひろば (子育て支援拠点) 等による相談事業	評価	C	令和7年度	
○子育てに関する悩みや不安の相談、子育て情報の提供などを市内に4か所ある地域子育て支援センター及び市民プラザ内の「こどもひろば」にて実施した。 R3 利用人数: 7,952人 利用組数: 3,621組 R4 利用人数: 12,303人 利用組数: 5,089組 R5 利用人数: 14,737人 利用組数: 6,551組 R6 利用人数: 16,068人 利用組数: 7,124組			○事業利用件数の拡充が課題となっていることから周知活動を行い、利用件数の増加を図る。	
(6) ファミリー・サポート・センター事業	評価	A	令和7年度	
○仕事と子育てが両立できるよう会員組織にて、子育てをサポートする事業を実施した。 R2 会員数: 184人 活動実績: 79件 R3 会員数: 195人 活動実績: 112件 R4 会員数: 209人 活動実績: 189件 R5 会員数: 203人 活動実績: 331件 R6 会員数: 236人 活動実績: 313件			○依頼会員及び利用件数は、増加傾向を示していることから、協力員の確保などに努めるなど事業の充実を図りながら、事業を継続していく。	

【評価基準】 S: 100%を超える A: 90%以上100%以下 B: 75%以上90%未満 C: 75%未満 D: 評価不能

1 政策名および施策名	
基本目標	2 結婚・出産・子育ての希望をかなえ、特色ある教育を提供する
基本施策	2 妊娠・出産・子育てを支援する

2 施策の担当課及び関係課	
担当課	こども家庭課
関係課	児童保育課

3 基本施策の方向性
安心して妊娠・出産・子育てができるよう相談事業、助成事業その他の支援に努めます。

4 事業のKPI								達成率 (%)
指標名 (単位)	年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	評価
	目標値							
<p style="font-size: 24px; margin: 0;">2-2 1枚目</p> <p style="font-size: 24px; margin: 0;">にまとめて記載</p>								
	実績値							

5	第2次総合戦略の取組と評価 (令和2~6年度)	第3次総合戦略の取組
(7)	子育て支援ヘルパー事業 ○妊産婦の家庭へ、家事等の援助を行うホームヘルパーを派遣し子育て支援を実施した。 R2 利用人数：4人 利用件数：53件 R3 利用人数：3人 利用件数：83件 R4 利用人数：5人 利用件数：86件	評価 A 令和7年度 ○ヘルパーを必要とされる妊産婦の家庭があることから、ヘルパーによる家事援助支援を行い、育児負担の軽減ができるように今後も事業を継続していく。
(8)		令和7年度
(9)		令和7年度
(10)		令和7年度
(11)		令和7年度
(12)		令和7年度

【評価基準】 S：100%を超える A：90%以上100%以下 B：75%以上90%未満 C：75%未満 D：評価不能

1 政策名および施策名	
基本目標	2 結婚・出産・子育ての希望をかたえ、特色ある教育を提供する
基本施策	3 特色ある教育を提供する

2 施策の担当課及び関係課	
担当課	学校教育課
関係課	生涯学習課・スポーツ振興課

3 基本施策の方向性
教育を市の魅力を発信する重要な手段と考え、「知・徳・体・コミュニケーション能力」を地域とともに育みます。

4 事業のKPI								達成率 (%)
指標名 (単位)	年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	評価
全国学力状況調査 (小6・中3全国差)	目標値		➡	➡	➡	➡	+2(小6) ±0(中3)	42.9%
	実績値	-1.7(小6) -5.9(中3)		+1.1(小6) -3.4(中3)	-0.7(小6) -3.7(中3)	-1.8(小6) -2.6(中3)	-0.6(小6) -0.3(中3)	C
高校生インストラクター講座 講師満足度 (%)	目標値		➡	➡	➡	➡	80	83.8%
	実績値	55	—	—	70	44	67	B
	目標値							
	実績値							
	目標値							
	実績値							
	目標値							
	実績値							

5 第2次総合戦略の取組と評価 (令和2～6年度)			第3次総合戦略の取組	
(1) 小中一貫教育の推進	評価	B	令和7年度	
<p>○令和2・3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、夏季休業中に各中学校ブロックで参集する合同研修会は中止となった。令和4・5年度は、羽生市学力向上推進委員会において、中学校ブロックで学力向上に関する協議を行った。</p> <p>○各小・中学校が研究授業をする際に、中学校ブロックの学校に研究授業の案内文書を送付し、相互学習参観を実施した。</p>			<p>○再編成に関わる小中一貫教育の研究として、小学校低学年から中学生までの系統性を踏まえて整理し、一貫した指導が行えるよう指標の作成・検討を行う。</p> <p>○再編成に向けた効果を高める小中一貫教育の研究(東中ブロック)として、特別活動における育てたい児童生徒の姿について、施設分離型の小中一貫教育を推進する。</p>	
(2) ICTを活用した教育の推進	評価	B	令和7年度	
<p>○児童生徒1人1台の学習パソコンを整備し、各学校の授業等で活用を始めた。</p> <p>○Googleの指導者を招聘したり、GIGAスクールサポーターを配置したりし、各学校での学習パソコンの活用促進を図った。</p> <p>○令和2、3年度に、埼玉県教育委員会委嘱「情報活用能力育成推進事業」の研究発表を全県に向けて、須影小・南中において行った。</p>			<p>○児童生徒の多様な学習活動を支援するため、ハネッセ等と連携したり、各学校の取り組みを共有する会議を実施したりして、学習パソコンの更なる有効な活用方法を市内で共有できるようにする。</p>	
(3) 英語教育の推進	評価	A	令和7年度	
<p>○令和2・3・4・5・6年度も引き続き全小・中学校へのALTの常駐を行った。</p> <p>○令和2年度まで実施していたGTETC(英語4技能評価テスト)は中止し、令和3年度からは中学3年生に向けた英語検定料金の補助を実施した。</p> <p>○岩瀬グローバルスクール事業、村君英語村推進事業を継続実施した。</p> <p>○令和3年度、岩瀬小学校において、文部科学省による教育課程特例校の委嘱を受け、英語教育の研究発表を行った。</p>			<p>○全小・中学校へのALTの常駐を継続する。</p> <p>○中学3年生を対象に、英語検定料金の補助を継続し、英語教育の推進を図る。</p>	
(4) 「子ども大学はにゅう」の開校	評価	B	令和7年度	
<p>○子どもの知的好奇心を刺激する学びの機会を提供し、他の小学校や他学年との交流により、成長した子どもたちの姿を見ることができた。</p> <p>R2: 中止、R3: 規模縮小し1日開催 14名参加、R4: 規模縮小し1日開催 14名参加 R5: 2日間開催 30名参加(うち、中学生サポーター5名) R6: 2日間開催 31名参加(うち、中学生サポーター5名)</p>			<p>○講義内容や視察研修のマンネリ化を防ぐため、各関係機関と協力・連携し、子どもたちにとって常に新しい学びの場となるような学習プログラムの実施に努める。</p> <p>○総合振興計画に示された年間修了人数の目標値達成に向け、参加人数が増加した場合の講義内容や受け入れ先企業等の検討を進める。</p>	
(5) 高校生インストラクター講座の開催	評価	B	令和7年度	
<p>○高校生が講師として、地域の方々を対象とした講座を主体的に企画・立案することで、授業で学んだことが活かせることに達成感を得た様子だった。</p> <p>R2: 中止、R3: 中止、R4: 3校(羽生第一高校、羽生実業高校、誠和福祉高校) R5: 3校(羽生第一高校、羽生実業高校、誠和福祉高校) R6: 2校(羽生実業高校、誠和福祉高校)</p>			<p>○高校との調整を重ね、実施回数を増やしていけるよう講座開催の協力を依頼していく。</p> <p>○参加者の満足度が高く、講師を務めた高校生も貴重な経験で学びがあったとの声が多いことから、講師側の満足度が上がるような働きかけを行っていく。</p>	
(6) トップアスリート育成事業	評価	A	令和7年度	
<p>○新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。(R2～R4)</p> <p>○実施種目を含め指定管理者との連携について協議・検討した。</p> <p>○スポーツ少年団加盟種目を中心に指定管理者と連携し開催した。</p> <p>R5: 4種目(バスケットボール・サッカー・剣道・卓球) R6: 3種目(バスケットボール・サッカー・剣道)</p>			<p>○指定管理者との継続した連携内容を検討する。</p> <p>○指定管理者への委託事業として継続して開催する。</p>	

【評価基準】 S: 100%を超える A: 90%以上100%以下 B: 75%以上90%未満 C: 75%未満 D: 評価不能

1 政策名および施策名	
基本目標	3 時代に合った地域をつくる
基本施策	1 一人ひとりが健康に暮らせるまちづくりを推進する

2 施策の担当課及び関係課	
担当課	健康づくり推進課
関係課	高齢介護課・国保年金課・スポーツ振興課

3 基本施策の方向性
市民一人ひとりが生涯にわたって健康な生活が送れるよう、様々な支援に取り組んでいきます。

4 事業のKPI								達成率 (%)
指標名 (単位)	年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	評価
週1回以上スポーツをする18歳以上の市民の割合 (%)	目標値		➡	➡	➡	➡	50.0	89.0%
	実績値	44.3	46.3	41.0	50.4	39.6	44.5	B
健康づくり事業へ参加する市民の割合 (10/1時点人口比) (%)	目標値		➡	➡	➡	➡	30.0	53.0%
	実績値	25.0	0.0	6.3	11.0	14.7	15.9	C
いきいき百歳体操参加者数 (人/年)	目標値		➡	➡	➡	➡	1,500	88.5%
	実績値	1,015	1,498	1,307	1,244	1,283	1,328	B
	目標値							
	実績値							
	目標値							
	実績値							

5 第2次総合戦略の取組と評価 (令和2~6年度)	第3次総合戦略の取組
(1) 産学官連携による健康イベント等の開催 評価 B	令和7年度
○各種企業、大学等による協定締結などを推進している中で、イオンモール羽生と連携し、健康ウォーキング講座を実施した。 R5:71人、R6:58人 OR5:イオンモール羽生にて健康パネル展を開催した。	○イオンモール羽生等の民間と協働のイベント(健康講座)を実施することで、その施設を利用する若い世代や関心の低い方に対するアプローチを行う。
(2) 健康講座の開催 評価 B	令和7年度
○各種健康講座を開催した。 R4:高血圧予防講座 1回/18人 R5:カラダ整うコンディショニング講座 2回/19人、健康ウォーキング講座 1回/71人(再掲)、糖尿病予防講座 1回/11人 R6:知って得する!健康習慣講座 2回/延べ63人、カラダチェンジクラス 2回/22人、モールウォーキングde健康づくり! 1回/58人(再掲)	○講座内容の見直しを行い、若い世代に関心の高いピラティス講座等を実施する。 ○対面式講座を実施するだけでなく、その様子を撮影、羽生市公式youtube等に掲載することで、若い世代や関心の低い方へアプローチする。
(3) 介護予防事業 評価 A	令和7年度
○高齢者の健康づくりとともに、生きがい支援、地域の見守り活動ともつながりのある介護予防事業「いきいき百歳体操」の普及、定着支援を継続した。 R2:8地区38会場、登録者数(R3.4月現在)1,134人、サポーター数364人 R3:8地区38会場、参加者及びサポーター数1,307人 R4:8地区38会場、参加者及びサポーター数1,244人(コロナ禍で減少) R5:8地区42会場、参加者及びサポーター数1,283人 R6:9地区44会場、参加者及びサポーター数1,328人	○いきいき百歳体操の普及、定着支援を継続する。 ○体力測定の実施による効果を可視化する。
(4) 各種健康診断の推進 評価 C	令和7年度
○特定健診の実施(受診率) R3:34.4% R4:34.4% R5:32.8% R6:32.6% ○特定保健指導の実施(利用率) R3:12.8% R4:5.8% R5:4.8% R6:6.6% ○健康診査の実施(受診率) R3:38.7% R4:39.6% R5:39.8% R6:38.9%	○特定健診を実施する。 ○特定保健指導を実施する。 ○健康診査を実施する。
(5) 健康づくり、体力づくりのための環境整備 評価 B	令和7年度
○「はにゅう筋力UP!体操」を考案し、市HP等で紹介した。(R2) ○「ムジナもん体操」の動画を更新した。(R2) ○「ムジナもん体操スローバージョン」を作成し、市HP等で紹介した。(R4) ○スポーツスクールを開催した。 R4:12教室/115名、R5:13教室/141名、R6:12教室/141名	○従来の取組を継続して開催する。 ○生涯学習出前講座やニュースポーツ出前教室を活用した各種体操の普及推進
(6) ニュースポーツ出前教室 評価 B	令和7年度
○新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。(R2) ○市内9地区で参加人数を制限して開催した。 R3 参加者合計:141名 ○市内9地区を4ブロックに分けて開催した。 R4 参加者合計:101名 ○市内9地区を6ブロックに分けて開催した。 R5 参加者合計:114名 ○市内9地区を7ブロックに分けて開催した。 R6 参加者合計:110名	○スポーツ推進委員が主体となり実施方法や実施種目を検討し、継続して開催する。

【評価基準】 S:100%を超える A:90%以上100%以下 B:75%以上90%未満 C:75%未満 D:評価不能

1 政策名および施策名	
基本目標	3 時代に合った地域をつくる
基本施策	1 一人ひとりが健康に暮らせるまちづくりを推進する

2 施策の担当課及び関係課	
担当課	健康づくり推進課
関係課	高齢介護課・国保年金課・スポーツ振興課

3 基本施策の方向性
市民一人ひとりが生涯にわたって健康な生活が送れるよう、様々な支援に取り組んでいきます。

4 事業のKPI								達成率 (%)
指標名 (単位)	年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	評価
	目標値							
<p style="font-size: 24px; margin: 0;">3-1 1枚目</p> <p style="font-size: 24px; margin: 0;">にまとめて記載</p>								
	実績値							

5	第2次総合戦略の取組と評価 (令和2~6年度)	第3次総合戦略の取組
(7)	チャレンジ the スポーツ事業 評価 B ○新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。(R2・R3) ○スポフェスinはにゅう(指定管理者自主事業)と併せて開催した。(R4) 参加者合計: 37名 ○エンジョイDAY(指定管理者自主事業)と併せて開催した。 R5: 参加者合計61名、R6: 参加者合計35名	令和7年度 ○実施方法を検討し、継続して開催する。
(8)	スポーツレクリエーション事業 評価 B ○新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。(R2) ○市フロアカーリング大会を規模を縮小して開催した。 R3: 38チーム・130名、R4: 55チーム・179名、R5: 60チーム・210名、 R6: 61チーム・215名 ○全国フロアカーリングを開催した。 R5: 99チーム・368名、R6: 93チーム・339名 ○はにゅうスポ・レクフェスタを開催した。 R5(参加者): 約700名、R6(参加者): 約1,000名 ○マラソン大会を開催した。 R4: エントリー数1,224名 当日参加者1,068名 R5: エントリー数1,319名 当日参加者1,163名 R6: エントリー数992名 当日参加者847名	令和7年度 ○従来の取組を継続して開催する。
(9)	評価	令和7年度
(10)	評価	令和7年度
(11)	評価	令和7年度

【評価基準】 S: 100%を超える A: 90%以上100%以下 B: 75%以上90%未満 C: 75%未満 D: 評価不能

1 政策名および施策名	
基本目標	3 時代に合った地域をつくる
基本施策	2 安全で安心なまちづくりを支援する

2 施策の担当課及び関係課	
担当課	地域振興課
関係課	秘書広報課・市民生活課・建設課

3 基本施策の方向性
市民の誰もが安心して住み続けられるまちづくりを推進します。

4 事業のKPI								達成率 (%)
指標名 (単位)	年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	評価
防災訓練を実施した自主防災組織数 (件/年)	目標値		➡	➡	➡	➡	74	59.5%
	実績値	58	12	17	24	41	44	C
全刑法犯認知件数 (件/年 (1~12月))	目標値		➡	➡	➡	➡	412	-351.2%
	実績値	453	430	436	381	490	597	C
	目標値							
	実績値							
	目標値							
	実績値							
	目標値							
	実績値							

5 第2次総合戦略の取組と評価 (令和2~6年度)			第3次総合戦略の取組		
(1) 自主防災組織への支援	評価	C	令和7年度		
○自主防災組織資機材整備・活動支援事業として自主防災組織育成補助金を交付した。 R1: 資機材整備0件、活動支援58件 R2: 資機材整備2件、活動支援12件 R3: 活動支援17件 R4: 活動支援30件 R5: 活動支援44件 R6: 活動支援51件 ○R3: 避難所運営マニュアルを修正 ○R5: 自主防災初動マニュアル作成 ○R6: 避難所運営マニュアルを修正			○自主防災組織育成補助金制度を運用する。 (資機材整備、活動支援)		
防災備蓄の推進	評価	A	令和7年度		
○消費期限が定められている物資についてはローテーションによって購入した。 ・R2: 新型コロナウイルス感染症対策に対応した消毒液、パーテーション等を購入			○必要に応じて防災備蓄品を購入する。		
(3) 内水害対策の推進	評価	A	令和7年度		
○利根川治水対策として、国の堤防強化対策における地元調整等を支援した。 ・I期区間(五霞町~東北自動車道) 令和5年度に概成 ・II期区間(東北自動車道~深谷市) 用地進捗率約52%、堤防強化対策進捗率約8% (令和7年3月末現在) ○県の中川河道改修事業における地元調整等を支援した。 ・中川河道改修は、中手子林調節池から中川起点(約3.3km)は、令和5年度末に概成 ○排水ポンプの交換、調整池の土砂浚渫、南中学校の校庭貯留施設整備工事を実施した。			○羽生市浸水対策基本計画に基づき、効果的な内水害対策として、排水ポンプの適切な維持管理を行う。また、市内のアンダーパスについて、ビット内の排泥処理を行い、冠水被害を低減する。調整池については、小松台調整池のポンプ修繕を実施する予定である。		
(4) 防犯啓発の推進	評価	A	令和7年度		
○各季(春・夏・秋・年末)防犯運動で、街頭キャンペーン等を実施した。 ○地域安全・暴力排除総決起大会を開催した。(令和3・4年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止。防犯ポスター・地域安全功労者表彰式のみ開催)			○各季(春・夏・秋・年末)防犯運動で、街頭キャンペーン等を実施する。 ○地域安全・暴力排除総決起大会を開催する。		
(5) 自主防災活動への支援	評価	A	令和7年度		
○地域安全推進連絡協議会へ交付金を交付した。 ○メール配信サービスを活用した犯罪情報の提供を行った。			○地域安全推進連絡協議会へ交付金を交付する。 ○メール配信サービスを活用した犯罪情報の提供を行う。		
(6) 防犯施設の整備	評価	A	令和7年度		
○防犯灯未設置箇所への防犯灯を整備した。 新設 R2: 92基 R3: 109基 R4: 107基 R5: 85基 R6: 83基 ○羽生駅自由通路設置防犯カメラ15基の維持管理。警察署より捜査依頼があった場合に防犯カメラの録画画像を提供した。 提供件数 R2: 8件 R3: 17件 R4: 17件 R5: 9件 R6: 3件 ○埼玉県警察本部にイオンモール羽生周辺への交番設置を要望した。			○未設置箇所に計画的にLED防犯灯を整備する。 ○羽生駅舎に設置の防犯カメラ15基の維持管理を行う。		

【評価基準】 S: 100%を超える A: 90%以上100%以下 B: 75%以上90%未満 C: 75%未満 D: 評価不能

1 政策名および施策名	
基本目標	3 時代に合った地域をつくる
基本施策	2 安全で安心なまちづくりを支援する

2 施策の担当課及び関係課	
担当課	地域振興課
関係課	秘書広報課・市民生活課・建設課

3 基本施策の方向性
市民の誰もが安心して住み続けられるまちづくりを推進します。

4 事業のKPI								達成率 (%)
指標名 (単位)	年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	評価
	目標値							
<p>3-2 1枚目 にまとめて記載</p>								
	実績値							

5	第2次総合戦略の取組と評価 (令和2~6年度)	第3次総合戦略の取組
(7)	外国人住民への支援 ○日本語教室を開催した。 毎月第1・3日曜日 午前10時~12時 中央公民館 R2: 19回開催 (延べ57名受講) R3: 20回開催 (延べ36名受講) R4: 17回開催 (延べ57名受講) R5: 22回開催 (延べ115名受講) R6: 24回開催 (延べ170名受講)	令和7年度 ○日本語教室を開催する。 ・毎月第1・3日曜日 午前10時~12時 ・中央公民館
(8)	評価 A	令和7年度
(9)	評価	令和7年度
(10)	評価	令和7年度
(11)	評価	令和7年度
(12)	評価	令和7年度

【評価基準】 S: 100%を超える A: 90%以上100%以下 B: 75%以上90%未満 C: 75%未満 D: 評価不能

1 政策名および施策名	
基本目標	3 時代に合った地域をつくる
基本施策	3 優れた住環境を提供する

2 施策の担当課及び関係課	
担当課	まちづくり政策課
関係課	地域振興課・企画課・財政課・高齢介護課・商工課・環境課・企業誘致推進課

3 基本施策の方向性
便利で快適な街並みの創出に努め、誰もが暮らしやすい、住み続けたいと感じる「市民満足度の高いまちづくり」を目指します。

4 事業のKPI								達成率 (%)
指標名 (単位)	年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	評価
岩瀬土地区画整理事業の進捗面積 (ha、累計)	目標値		➡	➡	➡	➡	42.5	87.3%
	実績値	27.5	30.7	30.7	31.5	34.3	37.1	B
羽生駅発着数 (本/日)	目標値		➡	➡	➡	➡	207	90.3%
	実績値	202	196	189	188	188	187	A
商店街空き店舗対策モデル事業活用件数 (件/年)	目標値		➡	➡	➡	➡	3	133.3%
	実績値	2	3	2	3	3	4	A
	目標値							
	実績値							
	目標値							
	実績値							

5 第2次総合戦略の取組と評価 (令和2~6年度)	第3次総合戦略の取組
(1) 岩瀬土地区画整理事業の促進 評価 A ○北工区先行整備街区の企業進出(丸和油脂)に伴い、用途地区・地区計画を変更した。 ○北工区先行整備街区の丸和油脂工場北側敷地で、物流倉庫が建築可能となるよう地区計画を変更した。 ○第6回事業計画変更協議を行った。(令和6・7年度事業)	令和7年度 ○第6回事業計画変更を行う。(令和6・7年度事業) ○中央工区調整池築造工事実施設計を行う。(令和8・9年度工事予定)
(2) 優良住宅地としての都市基盤整備の推進 評価 A ○岩瀬土地区画整理事業南工区先行整備街区の優良住宅街区整備を行った。(全84区画発売) ○岩瀬土地区画整理事業南工区先行整備街区において第2期優良住宅街区造成工事を開始した。(全78区画) ○優良住宅街区南側の公園整備を行った。	令和7年度 ○第2期優良住宅街区販売を開始する。
(3) 商業施設の誘致 評価 A ○岩瀬土地区画整理事業南工区先行整備街区の商業施設街区において、すべての区画に店舗が建築された。	令和7年度 ○桑崎地区産業団地の整備に伴い地区計画を指定し、産業系土地利用を誘導する。 ○北工区先行整備街区の丸和油脂工場北側敷地にスバルモータープールを誘致する。(令和7年度竣工予定)
(4) 東武鉄道・秩父鉄道への発着列車増便等の要望等 評価 B ○東武鉄道伊勢崎線輸送力増強推進協議会の会長市として、同鉄道輸送力改善に係る要望を行った。なお、要望活動の方法として、令和2・3年度はコロナ禍の影響により陳情書の郵送としたが、令和4年度以降は対面により実施した。 ○埼玉県を通じて東武鉄道(株)及び秩父鉄道(株)へ輸送力改善に係る要望を行った。	令和7年度 ○引き続き、鉄道利用の状況変化を注視し、要望内容を適宜見直ししながら、鉄道事業者との合意形成を図る。
(5) 地域公共交通サービスの充実 評価 A ○デマンド交通導入の検討及び方向性を決定した。 ・先進事例視察等を実施 ・令和4年10月からのりあいタクシーの実証運行を実施 ○地域公共交通会議を開催した。 R4:2回 R5:1回 R6:2回 ○令和5年度公共交通に関する市民アンケート調査を実施した。(1,500人対象) ○令和6年度のりあいタクシー本運行への移行を決定した。	令和7年度 ○令和7年4月1日からのりあいタクシーの本運行を開始する。
(6) 買い物弱者支援 評価 A ○宅配電話帳(R5更新)の周知、PRを行った。 ○デマンド交通(のりあいタクシー)の実証運行を開始した。 ○社会福祉協議会が実施する移動販売車による食品販売事業が開始となり、その事業を支援した。	令和7年度 ○社会福祉協議会が実施する移動販売車による食品販売事業を今後も支援する。

【評価基準】 S:100%を超える A:90%以上100%以下 B:75%以上90%未満 C:75%未満 D:評価不能

1 政策名および施策名	
基本目標	3 時代に合った地域をつくる
基本施策	3 優れた住環境を提供する

2 施策の担当課及び関係課	
担当課	まちづくり政策課
関係課	地域振興課・企画課・財政課・高齢介護課・商工課・環境課・企業誘致推進課

3 基本施策の方向性
便利で快適な街並みの創出に努め、誰もが暮らしやすい、住み続けたいと感じる「市民満足度の高いまちづくり」を目指します。

4 事業のKPI								達成率 (%)
指標名 (単位)	年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	評価
	目標値							
<h2 style="margin: 0;">3-3 1枚目 にまとめて記載</h2>								
	実績値							

5	第2次総合戦略の取組と評価 (令和2~6年度)	第3次総合戦略の取組
(7)	公共施設等マネジメントの推進 評価 A ○羽生市公共施設個別施設計画を令和3年度に策定及び令和5年度に一部改訂した。 ○羽生市公共施設等総合管理計画を令和5年度に一部改訂した。 ○リーディングプロジェクト推進により女性センター機能を市民プラザに令和5年4月に集約化し、令和6年度跡地を売却した。 ○公立保育所4か所（第2・4・6・7）を閉所し、いわせ保育所の新設準備を行った。 ○井泉、三田ヶ谷、村君の3校を統合する羽生東小学校の新設準備を行った。併せて、跡地活用の準備に着手した。	令和7年度 ○旧三田ヶ谷小学校、旧村君小学校の跡地活用を進める。（売却又は賃貸） ○旧保育所（第2・4・6・7）の跡地活用を進める。
(8)	羽生市空家等対策計画による空き家の適正管理等の促進 評価 A ○環境課による第2次調査を実施した。令和5年度末：空き家数 955件 ○毎年5月に送付する固定資産税納税通知書（約24,000通）に、空き家・空き地の適正管理や空き家・空き地個別相談会についての案内文書と一緒に郵送した。 ○関係団体と連携し、空き家・空き地個別相談会を開催。6回の開催で32組の相談があり、管理・継続等空き家・空き地の今後について相談者に助言を行った。 ○空き家・空き地バンクの登録物件情報を市ホームページで公開した。新規6件	令和7年度 ○羽生市空家除却補助金（新設）による老朽空き家の除却を推進する。 ○固定資産税納税通知書（約24,000通）に空き家・空き地維持管理の啓発案内を同封する。 ○空き家・空き地個別相談会を開催する。（年6回） ○空き家・空き地バンクの運営する。
(9)	中心市街地活性化の促進 評価 A ○商店街賑わいづくり支援事業 ・MALL DESIGN実行委員会による、空き店舗調査や各種イベントを開催した。 ・ムジナもんワイワイまつりを松原通り商店会にて開催した。 R6：来場者数3,500人 ・引き続き、商店街空き店舗対策モデル事業費補助金事業を実施した。 ○市民プラザ管理運営 ・空調機コンデンサー修繕ほか15件の修繕を実施した。 ・R6：利用件数 2,205件 利用者数 48,846人	令和7年度 ○引き続き、各商店街等との連携により商店街活性化のためのイベント等の開催を行い、個性と魅力に満ちた活気ある商店街づくりを支援する。 ○市民プラザについては、引き続き適正な管理運営を行うと同時に、今後の在り方について研究を行う。
(10)		令和7年度
(11)		令和7年度
(12)		令和7年度

【評価基準】 S：100%を超える A：90%以上100%以下 B：75%以上90%未満 C：75%未満 D：評価不能

1 政策名および施策名	
基本目標	4 地域資源を生かし、ブランド力を高める
基本施策	1 地域資源を生かす

2 施策の担当課及び関係課	
担当課	観光プロモーション課
関係課	郷土資料館

3 基本施策の方向性
特産品、自然、文化財、キャラクターなどを地域資源として積極的に活用、発信し、戦略的にシティプロモーションを行うことで本市の知名度を向上させ、定住、観光、関係人口の創出に努めます。

4 事業のKPI								達成率 (%)	
指標名 (単位)	年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	評価	
文化財講座等の実施 (回/年)	目標値		➡	➡	➡	➡	12	41.7%	
	実績値	6	2	3	5	5	5	C	
ロケーションの誘致回数 (件/年)	目標値		➡	➡	➡	➡	30	80.0%	
	実績値	13	19	24	13	15	24	B	
ふるさと納税の返礼品の数 (品)	目標値		➡	➡	➡	➡	200	200.0%	
	実績値	100	230	300	340	350	400	S	
	目標値								
	実績値								
	目標値								
	実績値								

5 第2次総合戦略の取組と評価 (令和2～6年度)			第3次総合戦略の取組		
(1) キャラクターの活用	評価	B	令和7年度		
<p>○企業等へのキャラクター使用やムジナもんファンクラブを活用して認知度向上や市のPRを図った。</p> <p>○キャラクターイベントについてはふるさと納税をからめてイベントを開催することにより地場産品や地域をPRすることができた。</p>		<p>○市の観光資源とキャラクターを合わせてPRすることで、より一体感のあるシティプロモーションを推進する。</p>			
(2) SNSや動画の活用	評価	B	令和7年度		
<p>OX (旧Twitter) やYoutubeを活用して積極的に情報発信を行った。</p> <p>X フォロワー数：5,870人、Youtube登録者数：2,400人</p> <p>○行政手続等や各種イベント案内を動画にて発信した。</p> <p>○オンラインで生配信のイベントを開催した。</p>		<p>○引き続きムジナものSNSやLINEをはじめとする各種webメディアを通じて、地域資源をPRすることで、より広い層に羽生市をPRする。</p>			
(3) 羽生市ロケーションサービスによるロケーション誘致	評価	B	令和7年度		
<p>○撮影に関する相談や調整を迅速かつ確に行い続けた結果、制作者からの信頼を得ることで、リピートの増加に繋がり、撮影件数を増やすことができた。</p> <p>○撮影場所として借用する施設の担当者とは良好な関係を築くことで、スムーズに日程調整等のやり取りを行うことができた。</p>		<p>○目標に掲げている撮影件数「30件」を達成できるよう、これまで通り撮影規模の大小関係なく対応していく。また、新たな撮影場所を追加など、窓口を広げることで件数の増加を図る。</p>			
(4) 文化財等の講座の開催	評価	C	令和7年度		
<p>OR2：「ムジナもの生態と掘上田」をテーマに羽生学講座を2回(10/3,10/24)実施した。</p> <p>OR3：羽生市ムジナもん発見100周年記念に伴い、記念講演会(7/18)を開催した。</p> <p>OR4：林宏一氏を講師に招き、「羽生市の仏像」をテーマにした羽生学講座公開講演会(第11回・12/3)を開催した。</p> <p>OR5：牧野富太郎とムジナものに関する講演会(7/22)を開催した。</p> <p>OR6：羽生城をテーマとした講座(12/8)を開催した。</p>		<p>○市内の歴史や文化について理解の深化を図るための講座を企画・実施する。</p>			
(5) 文化財等の保護・啓発	評価	S	令和7年度		
<p>○国指定天然記念物宝蔵寺沼ムジナもみ原生地について、保護増殖事業、自生促進事業、陸地化した水路の掘削等を実施し、ムジナもの自生状況の改善を促進した。</p> <p>○県指定天然記念物勸兵衛マツについて、樹勢回復のための薬剤散布やコモ巻き等を実施した。</p> <p>○市指定史跡伝馬越館跡について、整備業務として下草刈りや竹伐採を実施した。</p> <p>○獅子舞見学会(上村君,下手子,林,桑崎)は、新型コロナウイルス感染症防止のため、中止していたが、令和5年度から再開した。</p>		<p>○文化財の保護が適切に行われるよう引き続き各種施策を講じる。また、文化財保護精神の啓発に努める。</p>			
(6) ムジナもの活用	評価	A	令和7年度		
<p>OR2：宝蔵寺沼ムジナもみ原生地の一般公開を4回、自生地観察会(8/1)を実施した。</p> <p>OR3：羽生市ムジナもん発見100周年記念に伴い、自生地見学会(10/2)、パネル展(7月～3月)を実施した。また、ムジナもみ原生地の一般公開を4回実施した。</p> <p>OR4：天然記念物の啓発及び身近な自然に触れる事業として、宝蔵寺沼ムジナもみ自生地見学会を6回実施した。</p> <p>OR5：自生地見学会(7回)、パネル展(5月～3月)を実施した。</p> <p>OR6：自生地見学会(5回)を実施した。また、「ムジナもの復活の軌跡」と題した講演会(1/12)を開催した。</p>		<p>○ムジナもみ原生地においては、保全活動の結果、県のレッドリストにおいて「野生絶滅」から「絶滅危惧ⅠA類」になり、野生復帰を果たした。野生復帰を記念した自生地特別見学会等PR活動を推進する。</p>			

【評価基準】 S：100%を超える A：90%以上100%以下 B：75%以上90%未満 C：75%未満 D：評価不能

1 政策名および施策名	
基本目標	4 地域資源を生かし、ブランド力を高める
基本施策	1 地域資源を生かす

2 施策の担当課及び関係課	
担当課	観光プロモーション課
関係課	郷土資料館

3 基本施策の方向性
<p>特産品、自然、文化財、キャラクターなどを地域資源として積極的に活用、発信し、戦略的にシティプロモーションを行うことで本市の知名度を向上させ、定住、観光、関係人口の創出に努めます。</p>

4 事業のKPI								達成率 (%)
指標名 (単位)	年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	評価
	目標値							
<h2 style="margin: 0;">4-1 1枚目 にまとめて記載</h2>								

5	第2次総合戦略の取組と評価 (令和2~6年度)	第3次総合戦略の取組
(7)	ふるさと納税返礼品の拡大 ○返礼品提供事業者を訪問し、羽生市内で作られている商品を開拓した。 ○サイトの見栄えや情報を充実させ、寄附者に詳しい情報を伝えるよう努めた。 品数 (事業者数) 400品 (105者)	令和7年度 ○引き続き、返礼品提供事業者の開拓、出品数の増加を目指し、ふるさと応援寄附金の増額につなげる。
(8)	評価	令和7年度
(9)	評価	令和7年度
(10)	評価	令和7年度
(11)	評価	令和7年度
(12)	評価	令和7年度

【評価基準】 S: 100%を超える A: 90%以上100%以下 B: 75%以上90%未満 C: 75%未満 D: 評価不能

1 政策名および施策名	
基本目標	4 地域資源を生かし、ブランド力を高める
基本施策	2 観光を振興する

2 施策の担当課及び関係課	
担当課	観光プロモーション課
関係課	商工課・農政課

3 基本施策の方向性
羽生市観光基本計画に基づき、市民や事業者、行政の協働のもとに計画を推進することで観光交流人口を増やし、もって羽生市のにぎわいの創出を目指します。

4 事業のKPI								達成率 (%)	
指標名 (単位)	年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	評価	
世界キャラクターさみっとin羽生の来場者数 (人/年)	目標値		➡	➡	➡	➡	30万	21.7%	
	実績値	11.5万	-	-	5.2万人	5.6万人	6.5万人	C	
観光農園新規参入事業者数 (者、累計)	目標値		➡	➡	➡	➡	5	100.0%	
	実績値	1	4	4	4	5	5	A	
	目標値								
	実績値								
	目標値								
	実績値								
	目標値								
	実績値								

5 第2次総合戦略の取組と評価 (令和2~6年度)				第3次総合戦略の取組			
s	世界キャラクターさみっとin羽生開催事業	評価	B	令和7年度			
<ul style="list-style-type: none"> ○令和2、3年度事業については新型コロナウイルスの影響によりリアルなイベントではなく、WEB配信イベントにて、市のPR (ふるさと納税、地域文化活動、飲食店応援) を行った。 ○令和4年度は会場をイオンモール羽生とし、リアルイベント、生配信を同時に開催した。 ○キャラクターのPRに加え、市内グルメ、物産の出店、ふるさと納税のPR企画などを実施した。 R6: 参加キャラクター176キャラ、参加団体179団体 ○コロナ禍の終息以降、来場者は増加傾向にあり、羽生市のPRイベントとしても広く定着している。(今後の事業の在り方を再度検討していく必要がある。) 				<ul style="list-style-type: none"> ○会場を市役所・羽生平和公園に変更するとともに、公共交通機関と連携し、歩いて楽しめる形を提案することで、来場者のさらなる市内消費を促す。 			
	利根川等地域資源活用事業	評価	B	令和7年度			
<ul style="list-style-type: none"> ○利根川の魅力を育む会と連携を図り利根川活用のイベントを開催した。 ○利根川での漁業券をふるさと納税返礼品に加えた。 ○令和4年度、6年度に利根川観光活用ワークショップを開催し、利根川の観光活用について具体的なイベントを展開した。(利根川歴史散策や河川敷でのBBQ、石ころアートなど) 				<ul style="list-style-type: none"> ○利根川を会場に参加者・観客ともに楽しめる新たな親水イベントを開催し、利根川の観光活用について再認識し、利根川を観光活用するための水辺拠点への足掛かりとする。 			
(3)	観光農園事業	評価	A	令和7年度			
<ul style="list-style-type: none"> ○観光農園等基本構想計画地への企業参入に向け、農地改良(畑地化)を実施した。 ○キャッセ羽生でブルーベリーや各種野菜の収穫体験を実施した。 ○キャッセ羽生と近隣観光施設等関係機関と連携したイベントや広告等を行った。 ○近隣観光施設との連携事業として、羽生水郷公園内にハーブ園を整備した。 ○集客力強化のため、参入事業者の6次化(キャッカ-整備)を支援した。R2: 2件、R3: 1件 ○チャレンジファームで観光農園(いちご狩り)がスタートした。(2者) 				<ul style="list-style-type: none"> ○観光農園等基本構想計画地への企業参入が決まり次第、農地改良(畑地化)を実施する。 ○キャッセ羽生と近隣観光施設等関係機関と連携し、イベント等を実施し、羽生水郷公園内にはハーブ園を整備する。 ○チャレンジファームで観光農園(いちご狩り)事業を実施する。 			
(4)	藍染振興事業	評価	A	令和7年度			
<ul style="list-style-type: none"> ○市民プラザでふれ藍ショップを運営した。 ○市民プラザで、一般利用者及び市内小学生に藍染体験を実施した。 ○市内栽培の蓼藍を活用した「叩き染め体験」をワークヒルズ羽生で実施した。(R2~R6) ○ハンバーガー世界大会にTシャツや、エプロンを作成し藍染をPRした。(R5) ○市内各社にストールを作成してもらい、ふれ藍ショップにて販売した。(R5~R6) ○市中銀行において藍染マンデーを実施した。(R6) 				<ul style="list-style-type: none"> ○藍染体験の利用促進、イベントへの参加、PR強化を図る。 ○地場産業である藍染製品のPR、販売促進を行う。 ○藍染マンデーの普及を図る。 			
(5)	観光拠点施設等の有効活用	評価	B	令和7年度			
<ul style="list-style-type: none"> ○キャッセ羽生において観光農園事業として収穫体験の充実を図り、県・市・公園緑地協会・近隣観光施設等関係機関と連携したイベントや広告等を行った。 ○チャレンジファーム参入業者と連携したイベント等を実施し、バーガーフェスを開催した。 ○三田ヶ谷農林公園に指定管理者制度を導入し、指定管理者による管理運営を開始した。 ○指定管理者による道の駅はにゅうの適正な管理運営を行った。 				<ul style="list-style-type: none"> ○道の駅はにゅう指定管理者と連携し、イベントの継続的な開催や、情報発信コーナーを活用したPRを図る。 ○キャッセ羽生における収穫体験を実施する。 ○チャレンジファーム参入業者と連携したイベント等を実施する。 ○指定管理者による三田ヶ谷農林公園の適正な管理運営を行う。 			
(6)	地場産業「藍染」等のPR	評価	A	令和7年度			
<ul style="list-style-type: none"> ○埼玉WABISABI大祭典に出展し、藍染体験、PRを実施した。R3: 2日間 ○「青織の市」(R3~R6)に出展し、藍染体験を実施した。 ○羽生駅自由通路ショーケースに羽生市産地産産業振興協議会による地場産品を展示した。 ○道の駅はにゅうを活用した藍染パネルを展示した。 ○図書館・郷土資料館と連携し、「ふれ藍まつり」を開催した。(R6) ○羽生駅自由通路に藍染製品を展示した。(R6) 				<ul style="list-style-type: none"> ○藍染PRのためのイベント出展を行う。 ○道の駅はにゅうを活用した藍染PRを行う。 ○図書館、郷土資料館と連携し、「ふれ藍まつり」を開催し藍染のPRを行う。 ○羽生駅自由通路を活用した藍染展示を行う。 			

【評価基準】 S: 100%を超える A: 90%以上100%以下 B: 75%以上90%未満 C: 75%未満 D: 評価不能

1 政策名および施策名	
基本目標	4 地域資源を生かし、ブランド力を高める
基本施策	3 転入を促進する

2 施策の担当課及び関係課	
担当課	企画課
関係課	

3 基本施策の方向性
羽生市に居住することで得られる市民サービスを積極的に発信し、羽生市に移住、定住する人の流れを促進します。

4 事業のKPI								達成率(%)
指標名(単位)	年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	評価
人口の社会増加数(人、累計) ※R1実績値はH28~H30の平均値	目標値		➡	➡	➡	➡	750	168.7%
	実績値	138	△14	188	642	1,003	1,265	S
住みよさランキング(東洋経済新報社発表、県内40市中順位)	目標値		➡	➡	➡	➡	10位	127.3%
	実績値	21位	19位	17位	17位	5位	7位	S
	目標値							
	実績値							
	目標値							
	実績値							
	目標値							
	実績値							

5 第2次総合戦略の取組と評価(令和2~6年度)			第3次総合戦略の取組	
(1)	埼玉県や北埼玉地域「彩の国づくり」連絡協議会との移住連携事業の実施	評価	A	令和7年度
○県主催の住み替え・移住PRイベント「おいで埼玉！」に参加し、東武鉄道沿線市町村とPR活動を行った。 ○移住ガイドブックを作成し、埼玉県移住総合相談窓口「住むなら埼玉」移住サポートセンター(東京・有楽町)等に配架した。			○引き続き、積極的に県主催の移住促進イベント等に参加し、県や他市町村と連携することで、各種プロモーションの相乗効果を図る。	
(2)	移住相談の受付	評価	C	令和7年度
○転入希望者からの相談を受け付け、要望に応じた情報提供等を行った。 R2:2件 R3:4件 R4:2件 R5:4件 R6:5件			○電話での相談が多く、相談件数も低調であったため、内容の深化を図ることができなかった。次期総合戦略では、相談窓口の認知度向上に向け、周知方法の改善を図る。	
(3)	移住・定住のPR	評価	S	令和7年度
○市ホームページ内に移住促進ページを新設した。 ○移住ガイドブックを作成し、市内外施設やイベント等において配布した。 ○移住に係る市公式インスタグラムを開設した。 ○全国二地域居住等促進協議会に加入した。 ○移住マッチングプラットフォーム「たびすむ」に登録した。 ○株式会社アナザーワークスが運営する「複業クラウドfor Public」(複業マッチングプラットフォーム)を活用した複業人材活用に関する実証事業に参加し、2事業に着手した。			○移住ガイドブックや公式インスタグラムなど、様々な媒体を活用し積極的にプロモーションを展開する。 ○株式会社アナザーワークスとの実証事業の成果を踏まえ、本市に必要な新たな施策の実現性について精査し、事業化を図る。	
(4)		評価		令和7年度
(5)		評価		令和7年度
(6)		評価		令和7年度

【評価基準】 S:100%を超える A:90%以上100%以下 B:75%以上90%未満 C:75%未満 D:評価不能